

平成27年度「地域が誇る観光スポット」認定スポット一覧

No.	名称	めいしょう	エリア	概要
1	葦高神社	あしたかじんじゃ	伊野	雲陽誌に「高大明神」と記載される神社。祭神は伊努(いぬ)神社の夫神赤倉伊農意須美比古佐和氣能命(あかふすまいぬおほすみひこさわけのみこと)が祀られている。本殿は伊野地区の神社の中で最も大きく高床式。同一地域に夫神と妻神とが向かい合わせて祀ってあるという神社はあまり例がない。
2	伊努神社	いぬじんじゃ	伊野	出雲国風土記に記されている神社。祭神は天庭津姫命(あめのみかつひめのみこと)。国巡りをされたとき夫神赤倉伊農意須美比古佐和氣能命(あかふすまいぬおほすみひこさわけのみこと)(葦高神社の祭神)を恋慕われて「伊農(いぬ)はや」と仰せられたことから名付けられた。伊野地区の総氏神として崇拝されている。
3	十膳山頂及び山頂からの景観	じゅうぜんさんちょうおよびさんちょうからのけいかん	伊野	出雲国風土記に「都勢野(つせぬ)」と記される十膳山は、戦国時代には、大野氏の一族宮倉氏の居城であったと伝えられている。山頂からは270度のパノラマ絶景が楽しめ、宍道湖は勿論松江市内、出雲空港、晴れた日には大山、三瓶山も望める。また山頂付近では春には桜、つつじ、梅雨には紫陽花、夏にはサルビア、秋には紅葉が楽しめる。
4	弓原・桜並木道	ゆんばら・さくらなみきみち	塩冶	石州街道と呼ばれていたこの道には、現在の板倉酒造の酒蔵付近に郡役所があり、江戸時代には罪人が往來の真ん中で鞭打ちの刑を受けることもあったようです。また幕末の測量士 伊能忠敬がこの道を測量して歩いた記録も残っています。4月初旬には桜の花のトンネルができ、花見スポットにもなっています。
5	上塩冶築山古墳	かみえんやつきやまこふん	塩冶	西出雲地方の首長墓と考えられる古墳時代後期の円墳で、全長14.6メートルの横穴式石室は、凝灰岩の切石で構築された整美なもので、県内最大規模のものです。室内には、丁寧に加工された大小二個のくり抜き式家形石棺が置かれています。玉類・冠・刀剣・鈴・槍・銀環・鎌・馬具・土器などが出土しています。
6	神門寺	かんどじ	塩冶	781年に光仁天皇の勅願所として天應山神門寺が開基されたとされる古刹。境内には南北朝時代に活躍した塩冶判官高貞の墓標といわれる五輪の塔や、塩冶一族の供養塔が並んでいます。中世から近代の古文書、「和漢朗詠集」や至徳3年の「庭訓往来」等貴重な文化財を保有していることでも知られています。
7	今市大念寺古墳	いまいちだいねんじこふん	今市	今市大念寺古墳・上塩冶築山古墳・上塩冶地蔵山古墳へと続く、西出雲地方の首長墓と考えられる古墳。古墳の一部は壊れていますが、全長約92m、後円部径は推定約45m、高さは約7mあり、前方後円墳としては出雲地方で最大級のものです。横穴式石室は、奥室、前室、羨道からなる県内最大の複室構造の石室で、奥室の家形石棺(大棺)は全国的にも最大級。
8	久武神社・出西八幡宮	くむじんじゃ・しゅつさいはちまんぐう	出西	「久武神社」は、「出雲国風土記」の久牟社(くものやしろ)、「延喜式」神名帳の久武神社、「雲陽誌」の久茂大明神とされている。主祭神は、素盞鳴命(スサノヲノミコト)である。境内社には、八幡宮、若宮神社、稲荷神社、三保神社があり、八幡宮は通称「出西八幡宮」として親しまれている。
9	鹿島神社	かしまじんじゃ	川跡	鹿島神社の祭神は、武甕槌神(たけみかづちのかみ)、経津主神(ふつぬしのかみ)、天鳥船神(あめのとりふねのかみ)、櫛八玉神(くしやたまのかみ)です。この神々は、『古事記・日本書紀』の「国譲り」の段に登場します。天照大神の勅を奉じて高天原から天下り、大国主神に国譲りの諾否を問い、武力によらず平和裏に解決した神々です。
10	膳夫神社蹟	かしわでじんじゃあと	川跡	祭神の櫛八玉神は、大国主神が国譲りを承諾した後、高天原から使われた神々をもてなすために「多芸志の小浜」に「天の御舎(アミツカ)」を造営して宴を催した時の「コック長」。明治44年水害により鹿島神社に合祀され、その地は旧社地であったことを示す石碑が建てられています。
11	来原岩樋	くりはらいわひ	大津	来原岩樋は、斐伊川の農業用水利用と高瀬舟による物資輸送のため、岩山を開削した取水口。大森銀山の開削により開削したとも伝えられています。後に斐伊川の川床が高くなると、「開門(こうもん)式構造」に再開削され、現在の岩樋が完成しました。これが世界最古級の連続開門式の土木施設と評価され、平成26年9月、土木学会の推奨土木遺産に認定されました。
12	伊努神社	いぬじんじゃ	鳶巣	出雲国風土記、延喜式に載る古社で西林木町の氏神。御祭神の「赤倉伊努意須美比古佐和氣能命」の社がこの郷にあるので伊努郷といい、国引きをなされた八束美意豆努命の御子といわれています。北山からの沖積作用によって孤島が本土とつながったことが「国引き」であるとされ、中心地の伊努神社の御祭神は「大洲を見守る神」「穀壺神」といわれています。
13	都我利神社	つがりじんじゃ	鳶巣	出雲国風土記、延喜式に載る古社で東林木町の氏神。御祭神「味耜高彥根神」は、郡郷・山河・原野にいたるまでことごとく平定し、春耕秋穫の農事を教えた「開墾、耕作を意味する農耕の神」といわれています。長い石段を上った境内からは、正面に神奈備山(仏教山)、また眼下には宍道湖に流れる斐伊川と出雲平野を一望できます。
14	鳶ヶ巣城跡	とびがすじょうあと	鳶巣	鳶ヶ巣城址は、出雲北山の最高峰鼻高山と旅伏山の間位置する鳶ヶ巣山頂(標高281m)と山麓を中心とした戦国時代の山城跡で、市内でも最大規模のものです。山頂には数多くの郭や土塁が残り、山麓には兵や諸物資の中継基地となった大規模な郭群跡も見られます。尼子・毛利の攻防戦では、毛利輝元、吉川元長、小早川隆景など名だたる武将たちが拠点としました。